

紙の上に何があって、それに触れる心配をする必要がありますか？



Steven Hentges, Ph.D

2021年4月19日(月)

Posted in SAFETY

私たちが日常的に触れる多くの紙製品の表面にカラフルな絵柄が描かれていることに気がついたことがありましたか？ 特に興味深いのは、雑誌や紙製食品包装など、日常的に何気なく扱っている紙製品です。

しかし、その表面のカラフルな素材とは何なのか、そして日常的に扱う際に気にする必要があるのでしょうか？ 簡単に言えば、そのカラフルな素材は印刷用インクです。

[最近公開された](#)科学雑誌" Environment International "で、トロント大学の研究者等は、この2種類の紙製品を分析し、印刷インクに含まれる可能性のある残留化学物質を調べました。その中には、貯蔵寿命を延ばすための酸化防止剤として使用されている可能性のあるBPAも含まれていました。

食品包装は、トロントの地元の市場から集められ、お茶、砂糖、主食、スナックなどの乾燥食品の包装に使用されていました。また、雑誌も地元で収集されたもので、地元の人々がよく読んでいる雑誌でしょう。

研究者等は、印刷インクに関連するさまざまな化学物質の存在を測定し、製品取り扱いによる化学物質のヒトへの曝露も推定しました。化学物質が有害であるかどうかを知るためには曝露レベルを知る必要があるため、これは非常に重要です。

製品中に単に化学物質が含まれているだけでは、その化学物質が健康に悪影響を及ぼすかどうかを知るための十分な情報にはなりません。化学物質を含む製品を取り扱うことで、私たちはどれほどの化学物質に曝露されるのでしょうか？

ここで、研究結果及び研究者の結論が非常に興味深いものとなりました。おそらく予想通り、分析を行った多くの食品包装材料や雑誌からその他の低濃度化学物質と共に低濃度の BPA も検出されました。

重要なのは、製品の取り扱いによる化学物質への曝露をさらに分析した結果、次のように、**著者等は結論付けました。**：

「本研究では、食品包装材料や雑誌との接触による経皮曝露は副次的な曝露経路であり、健康への悪影響を及ぼす可能性は極めて低いことを示唆している。」

著者等は、典型的(及び最悪の場合の)BPA 曝露量と許容一日摂取量を比較することによって、この結論に達しました。BPA については、食品包装材料や雑誌の取り扱いによる典型的な曝露量は、許容一日摂取量の 100 万分の 1 未満であり、非常に大きな安全マージンがあることが分かりました。

BPA については、この大きな安全マージンは雑誌や食品包装材の取り扱いによる曝露が健康に悪影響を及ぼす可能性は極めて低いという著者等の結論を強く支持しています。雑誌の読み過ぎは別の問題を引き起こすかもしれませんが、化学物質曝露による健康への悪影響を心配する必要はないでしょう。